

<b>50063 日本語学各論Ⅰ（音声）</b> Linguistic Study of Japanese I (Phonetic s)		1 年次～ 後期 2 単位	
担当者	岡崎 敏雄	履修可能学科	E Pe Pc C
		関連資格	日本語（E・P e・P c・C）
サブタイトル	自分の発音を素材にして、「日本語音声の魅力と奥深さ」を味わい、音声学と音韻論を学ぶ		
授業内容 ・ ねらい	中心テーマ「日本語音声」をめぐって、その魅力を感じ取ることができるような点について、素材をもとに自分なりに感じ、考える。例えば、「（身）近」と「（河）鹿」の発音をつくり分ける術、日常生活の音を発音する（擬音語）、日本語のライオンはLかRか。「あいうえお」と「かきくけこ」の違い、「生」の読み方を全部言えるか、「柿」と「夏期」の発音は何か違うか、「一本、二本、三本、六本・・・」、何故読み方が違うのか、「尻」は昔は「フィ」、今でも奄美方言では「フィ」、「ヴォイス」か「ボイス」か「里親」と「砂糖屋」は？「ニワニワニワトリガニワイル」の読み方は？「目」の発音、地域によってどう違うか、唇とのどを同時に使って発音するスリルを味わう、などなど。 日本語の音声と音韻に関する音声学・音韻論の知見を得る。自分の発音を素材に音声の魅力と奥深さを味わう能力、ことばを音声面から捉える能力、そのために必要な発音技能、聴音技能を養う。		
授業計画	授業概要に挙げた具体的項目を発端として、日本語音声学・音韻論の必須項目を以下の順で学ぶ。 1. 音声言語の特徴 2. 擬音語（オノマトペ） 3. 音声と音韻 4. 日本語音韻体系 5. 外来語音の表記 6. 漢字の読み	7. 八行音の変遷 8. 万葉仮名と古代日本語音 9. アクセントによる弁別 10. 特殊拍 11. アクセントによる統語	
教科書 参考書	1. ハンドアウト配付 2. 参考書 受講生をみてその都度紹介していく。		
評価方法	レポート提出		
事前準備学習 履修条件等	自分の話すことばの魅力や、自分の発音をもとに探る楽しさを味わって欲しい。		